

# 日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所

162-0805 東京都新宿区矢来町 65

電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175

発行者 総主事 司祭 矢萩新一

## 「変わりゆく社会と変わらない福音を 再発見する教会」

—喜びのイースターに向かって—

管区事務所総主事 司祭 エッセイ 矢萩新一

「イエス・キリストは、昨日も今日も、また永遠に変わることのない方です。」(ヘブライ13:8、聖書協会共同訳)

三寒四温で春が近づいています。困難な生活の内にある方々、思い悩みの中にある方々を主が抱き守ってくださいますように。また、4月から新しい環境で学び働く方々の上に、神さまの豊かな祝福とお導きがありますようにとお祈りいたします。

アングリカン・コミュニオンの中で、同性婚やLGBTQ+の課題をめぐって、伝統的な聖書理解や国や地域の慣習や法律によって様々なとらえ方があり、多様性の一致という聖公会の絆が揺り動かされています。また、地域社会の中にあつて、公共性を欠く一部の宗教団体によって、宗教に対する不信感や疑念が強まりつつあります。

イエスさまの教えの核心は、神さまを大切に、自分と同じように他者を大事にすること、神さまから愛されている者としてとなりびとに仕えることです。自分の価値観を押し付けて人を分け隔てすることでもなく、誰かの権利を奪ってまで自分を正当化することでもありません。聖書理解や倫理観は、その時代の価値基準や地域社会の必要性によって変化してきました。最近でも、共に集まり祈ることが感染症の蔓延によってかなわず、オンライン技術の進化によって補われつつも、イエスさまの体と血であるパンとぶどう酒にあずかり強められるというリアルな経験はオンラインでは実現せず、多くの方が寂しい思いを強いられてきました。そのような中でも、そのような中だからこそ、より弱い立場にある方々に心を寄せ、具体的な取り組みを始める教会や団体もありました。イエスさまは、常識や伝統という見えない壁を打ち破り、一人ひとりのいのちに向き合い、共に歩む姿勢を私たちに示してください。

様々な変化や新しい道を歩みだす季節を迎えています、変

## □会議・プログラム等予定

(2023年3月25日以降・前回未掲載分)

### 3月

- 3日(金) 正義と平和・憲法プロジェクト会議 [Web]
- 3日(金) 宣教協議会実行委員会 [Web]
- 12日(日) 青年委員会 [Web]
- 26日(日) 青年委員会 [Web]
- 28日(火) 宣教協議会実行委員会 [大阪]
- 31日(金) 正義と平和・原発問題プロジェクト会議 [Web]

### 4月

- 10日(月) いのちを見つめる祈りの集い [Web]
- 12日(水) 管区会計監査 [管区事務所]
- 13日(木) 人権問題担当者会議 [Web]
- 14日(金) 法憲法規委員会 [Web]
- 15日(土) 「原発はやめようよ」Zoomカフェ [Web]
- 17日(月) 常議員会 [管区事務所]
- 18日(火) 正義と平和委員会 [管区事務所]
- 19日(水) セーフ・チャーチWG [管区事務所]
- 19日(水) ナザレ委員会 [管区事務所]
- 21日(金) 臨時主教会 [仙台]
- 22日(土) 東北教区主教按手・就任式 [仙台]
- 23日(日) 宣教協議会参加者オリエンテーション～清里への道 [Web]
- 25日(火) 正義と平和・沖縄プロジェクト会議 [+Web]
- 27日(木) 宣教協議会参加者オリエンテーション～清里への道 [Web]

### 5月

- 8日(月) いのちを見つめる祈りの集い [Web]
- 10日(水) ～12日(金) 祈祷書改正委員会 [ナザレの家]
- 11日(木) 神学教理委員会 [管区事務所]

(次頁へ続く)

### ※管区事務所の就業時間短縮

当面の間、就業時間の短縮をいたします。  
平日(月曜～金曜) 10:00～17:30 全員出勤勤務体制。

わるべきことと、変わることのない神さまの福音を見分ける心と目を養わせてください、新しい復活のいのちにあずかり、変化していく勇氣と知恵を与えてくださいと祈り求めながら、大齋節を大切に過ごし、喜びのイースターを迎えたいと思います。



## □主事会議

第 67 (定期) 総会期第 3 回 2023 年 2 月 24 日(金)

<主な報告・協議>

1. 海外出張について、東アジア礼拝協議会 (ALNEA・2023/2/7～13 台湾) への、永谷亮司祭 (北海道)・市原信太郎司祭 (中部)・成岡宏晃司祭 (大阪)、林和広司祭 (神戸)、永野拓也司祭 (神戸) の参加を承認した。
2. 平和宣教教育活動資金への京都教区からの申請について、J's キャンプ@沖縄に参加する中高生 14 名への補助を承認した。
3. トルコ・シリア地震の被災者支援について、緊急災害援助資金より NCC の ACT ジャパンフォーラムに 50 万円、世界宗教者平和会議日本委員会 (WCRP) に 30 万円の支援を承認した。各教区・教会からの献金は順次送金する予定。
4. セーフ・チャーチ・ガイドラインについて、概要を共有し、今後どのように用いていくか協議した。
5. 2013 年日本聖公会宣教協議会について、プログラムなどの概要を確認し、各主事も可能な限り出席することを確認した。
6. 管区職員雇用について、4 月 1 日より鳥居雅志さん (管区)、西島厚さん (ナザレ) と水野直子さん (ナザレ) の雇用を承認した。
7. 2022 年の決算案について、歳計余剰の処理を含めて承認し、常議員会に諮ることとした。
8. 聖路加国際病院における性暴力事件について、概要の共有と今後の対応について意見交換を行なった。
9. 法人等による寄付の不当な勧誘の防止等に関する法律 (被害者救済法) について、概要を共有し、旧統一協会を含むカルトについて今後も注意喚起していくことを確認した。

次回会議: 2023 年 6 月 22 日 (木)

(前頁より)

- 12 日 (金) ウィリアムズ主教記念基金運営委員会 [立教]
- 12 日 (金) ～ 13 日 (土) 拡大青年担当者会 [東京]
- 15 日 (月) 宣教協議会ぶどうの枝分科会 (主教会編) [Web]
- 24 日 (水) ～ 26 日 (金) 新任人権研修会 [大阪・奈良]

<関係諸団体会議・他>

- 3 月 27 日 (月) NCC 役員会 [Web]
- 4 月 6 日 (木) 日本キリスト教連合会常任委員会 [Web]
- 10 日 (月) NCC 役員会 [Web]
- 20 日 (木) 日本キリスト教連合会総会 [Wen]
- 20 日 (木) 「同宗連」総会 [東京]
- 24 日 (月) NCC 役員会・常議員会 [Web]
- 5 月 1 日 (月) ～ 5 日 (金) CCA 指導者協議会 [インドネシア・ジャカルタ]
- 15 日 (月) 部キ連総会 [大阪]

## □常議員会

第 67 (定期) 総会期第 4 回 2023 年 2 月 27 日(月)

<主な決議事項>

1. 海外出張に関して、CCA 指導者会議 (インドネシア・ジャカルタ、2023/5/1～5) への首座主教の出席を承認した。
2. 管区諸委員の交代に関して、吉田雅人主教の定年退職および金善姫司祭のソウル教区出向に伴い、礼拝委員に辻彩乃さん (大阪)、正義と平和委員に篠田茜さん (大阪 / ジェンダープロジェクト担当) への交代を承認した。管区共通聖職試験委員に吉田雅人主教から林和広司祭 (神戸 / 礼拝)、祈祷書改正委員長に笹森田鶴主教、ジェンダープロジェクトに加藤光さん (北海道)、憲法プロジェクトに中尾貢三子司祭 (京都) の追加の報告を受け承認した (2022/10/17 第 2 回 / 前回常議員会報告漏れ) : 管区共通聖職試験委員に近藤剛さん (神戸) から宇津山武志司祭 (横浜 / 教理) への交代を承認した。
3. セーフ・チャーチ・ガイドラインに関して、内容や体裁について協議し、ガイドラインを適用していく際の日本聖公会の課題のリスト化や今後必要なシステムの概略について引き続きワーキンググループに検討を依頼

- することとした。
4. 2023年宣教協議会に関して、プログラムなどの概要を確認し、常議員会から上田亜樹子司祭と赤坂有司さんが参加することとした。
  5. 聖路加国際病院における性暴力事件に関して、サバイバーの方からの要望事項や今後の対応、再発防止に向けての取り組みについて意見交換を行なった。
  6. 聖公会センターに関して、計画概要について確認し、管区事務所の機能などについて協議した。
  7. 2022年度決算案に関して、財政主事より説明を受け、承認した。
  8. 聖公会センターの改築費用に関して、改修費用約1.4億円のうち、1億円を「宣教財政強化資金」より支出することを承認した。
  9. 管区の諸資金の活用に関して、近年動きのない資金を他の資金に統合することを含め、設置の経緯を調べつつ継続審議していくこととした。
  10. ブラジル聖公会日本人宣教100周年のお祝いに関して、30万円を支出することを承認した。
- ※ 各教区財政担当者連絡協議会が2023/12/1～2「日本聖公会ナザレの家」(仮称)で行なわれる予定。
- 次回会議:2023年4月17日(月)、7月6日(木)

## □神学校

### ウイリアムス神学館

- ・2023年度入学礼拝  
2023年は入学生不在のため行なわれません。

## 《人事》

### 東北

<信徒奉事者認可>  
(盛岡聖公会)

2023年2月16日付

トマス赤坂 健、ルカ赤坂 徹、ソフィア赤坂康子、アイリーン坂水かよ、クリスチーナ曾根美砂

### 北関東

司祭	ガブリエル西海雅彦	2023年4月1日付	土浦聖バルナバ教会管理牧師に任命する。
司祭	パウロ鈴木伸明	2023年3月31日付	熊谷聖パウロ教会管理牧師の任を解く。
司祭	パウロ矢萩栄司	2023年3月31日付	下館聖公会管理牧師の任を解く。
司祭	ダビデ斎藤 徹	2023年3月31日付	土浦聖バルナバ教会管理牧師の任を解く。
		2023年4月1日付	熊谷聖パウロ教会管理牧師に任命する。
司祭	ルカ平岡康弘	2023年3月31日付	下館聖公会および高崎聖オーガスチン教会協働司祭の任を解く。
		2023年4月1日付	下館聖公会管理牧師に任命する。
主教	ゼルバベル広田勝一(退)	2023年4月1日付	志木聖母教会嘱託勤務(定住)を委嘱する。(任期1年)
司祭	サムエル興石 勇(退)	2023年4月1日付	榛名聖公会嘱託勤務(協働司祭)を委嘱する。(任期1年)
司祭	アンデレ斎藤英樹(退)	2023年4月1日付	幸手基督教会での嘱託勤務を委嘱する。(任期1年)
司祭	ヤコブ八戸 功(退)	2023年4月1日付	教区内諸教会での嘱託勤務を委嘱する。(任期1年)

司祭 ヨハネ小野寺 達(退)	2023年4月1日付	東松山聖ルカ教会嘱託勤務(定住)を委嘱する。(任期1年)
執事 テモテ鈴木育三(退)	2023年4月1日付	榛名聖公会での嘱託勤務を委嘱する。(任期1年)
執事 ミカエル・ヨシユア大山洋平	2023年4月1日付	高崎聖オーガスチン教会牧師補に任命する。
伝道師アンブローズ久保田 智(退)	2023年4月1日付	日光真光教会嘱託勤務を委嘱する。任期1年)

**東京**

司祭 ニコラス中川英樹	2023年4月1日付	立教学院への出向を命じる(任期2年)
司祭 ジェームズ須賀義和	2023年4月1日付	立教女学院への出向を命じる。(任期3年)
司祭 ヨハネ塚田重太郎	2023年4月1日付	立教女学院非常勤チャプレンに任命する(任期1年)
司祭 オーガスチン杉山修一(退)	2023年4月1日付	香蘭女学校チャプレンのもと、同校において嘱託チャプレン(非常勤)として勤務することを委嘱する。(任期1年)
主教 アンデレ大畑喜道	2023年3月31日付	インマヌエル新生教会での主日勤務の任を解く。

**九州**

司祭 バルナバ牛島幹夫	2023年4月1日付	厳原聖ヨハネ教会主日礼拝協力を命じる。
聖職候補生 ダビデ佐藤 充	2023年4月1日付	福岡聖ベテル教会主日礼拝協力を命じる。
司祭 テモテ山崎貞司(退)	2023年4月1日付	管理牧師主教ルカ武藤謙一のもとにおいて大分聖公会嘱託司祭として勤務することを委嘱する。また、延岡聖ステパノ教会主日礼拝協力を委嘱する。(任期1年)
司祭 ステパノ中村 正(退)	2023年4月1日付	管理牧師主教ルカ武藤謙一のもとにおいて佐世保復活教会の嘱託司祭として勤務することを委嘱する。また、佐賀聖ルカ伝道所主日礼拝等への協力を委嘱する。(任期1年)
司祭 ダビデ中島省三(退)	2023年4月1日付	管理牧師主教ルカ武藤謙一のもとにおいて鹿児島復活教会嘱託司祭として勤務することを委嘱する。(任期1年)
司祭 パウロ濱生正直(退)	2023年4月1日付	福岡ベテル教会主日礼拝協力を委嘱する。(任期1年)
司祭 キャサリン吉岡容子(退)	2023年4月1日付	福岡聖パウロ教会および久留米聖公会主日礼拝協力を委嘱する。(任期1年)

**《教会・施設》**

彦根聖愛教会(京都)

FAX(050-1128-5949) 廃止

## 聖公会センターの収益事業化について

1991年に東京教区と管区が協働して聖公会センターと牛込聖公会聖バルナバ教会を建築し、矢来町(神楽坂)での福音宣教と管区事務所の働きを担ってきました。140年以上の歴史を持つ牛込聖公会聖バルナバ教会が2021年5月末日で教会活動を終了しました。今後は日本聖公会の為に用いて欲しいという同教会の意向を受け、旧礼拝堂と聖公会センターを東京教区から実質無償の貸与によって、同センターで管区事務所が収益事業を行ない、その収益を聖公会年金の資金として活用していくことが、2022年6月の第67(定期)総会で決議されました。

具体的には、旧礼拝堂を管区事務所および会議室(2F部分)として、聖公会センターのビル(1F～3Fはオフィス、4F～6Fは合計6部屋の住居)を賃貸オフィス・住宅として、ビル1Fの一部は資料・保管書庫として利用する計画です。

旧バルナバ教会の礼拝堂は2022年9月に聖別解除の感謝礼拝が行なわれ、パイプオルガン

や聖卓をはじめとする備品を東京教区の諸教会や個人に引き取っていただきました。ビル1Fの和室と台所は昨年末に改装し、3Fの書庫を移設するなどして再整備中です。現在、旧礼拝堂に足場をかけ、外壁と屋根の補修が始まっています。5月末までには内部の改修も完了し、管区事務所の機能を完全に移す予定です。その後、聖公会センターの改修工事を来春を目途に行ない、2024年4月から賃貸事業を開始する予定です。地下鉄の駅から近いという立地を活かして再活用していきます。管区事務所の会議室は、12名程度の会議ができるように設える予定です。それ以上の会議やゲストルームの機能は諦めざるを得ませんが、近隣の教会のご協力や、貸会議室や近隣ホテルの利用でカバーしていきたいと考えています。聖公会センターのビルを「NSKK神楽坂」と称して、収益事業を展開していくこととなります。工事の安全と今後の管区事務所の働きを覚えてお祈りくだされば幸いです。

.....

## 日本聖公会「ナザレの家」について

2022年6月30日、ナザレ修女会は感謝礼拝をもって、その活動を終了しました。1919年に英国のエピファニー修女会の4人のシスターが来日し、1936年に「日本聖公会ナザレ修女会」として発会し、86年におよぶ歴史を刻んできました。2018年6月、臨時修女会議において、「将来健康な終生誓願修女がゼロとなるような事態を迎えた時は、「法人」の解散を決議し、「規則」に従って、解散時の法人の残余財産は「(宗)日本聖公会に寄付する」ことを決議し、2021年12月の臨時修女会議によって正式に残余財産の移譲の申し出が日本聖公会宛になされました。そして、2022年の第67(定期)総会で、法人解散・清算手続きが完了した際には、感謝をもって日本聖公会の基本財産として設定することが決議されました。この決議を受けて、常議員会のもとに「ナザレ委

員会」を設置し、資産受け入れ後の課題整理や管理運営に関する話を話し合っています。

2023年4月からは、日本聖公会「ナザレの家」として、引き続きエピファニー館を黙想や研修のために用いていきます。ウエハースも、ボランティアの方々にご協力いただきながら、制作が軌道に乗る5月頃から、各教会へお届けできる体制が整う見込みです。4月以降のエピファニー館の利用申し込み(書式を整えてご案内予定)やウエハースの注文(5月頃を目指して書式を整えご案内予定)は、管区事務所が窓口となります。皆様のご理解とご協力を、どうぞよろしく願いいたします。

管区事務所総主事

司祭 エッサイ 矢萩新一

## 2023年 沖縄週間 / 沖縄の旅に向けて

### 「わたしたちを平和の器にしてください」

—正義と平和に関わる現実に向き合い、祈る1週間—

管区 正義と平和委員会・沖縄プロジェクト 司祭 サムエル小林祐二

昨年行なわれた日本聖公会第67(定期)総会にて『「沖縄週間」継続の件』が可決され、「2023年から2027年までの毎年」(同議案)、沖縄週間が継続されることとなりました。この沖縄週間の趣旨は、「沖縄慰霊の日(6月23日)を含む1週間を「沖縄週間」とし、沖縄の宣教課題を具体的に共有する祈りやポスターなどを作成して全国の諸教会で用いること」(同)にあります。本年は6月18日(日・聖霊降臨後第3主日)～24日(土)まで、主にある皆さまとともに沖縄の宣教課題、特に正義と平和に関わる現実に向き合い、祈りの1週間を過ごしてまいりましょう。

新型コロナウイルスの影響による行動規制が徐々に解かれるなか、沖縄プロジェクトでは昨年後半から一部対面での会議も開催できるようになりました。コロナ禍で3年にわたりオンラインで行なってきた沖縄週間のプログラムも、2023年こそ「沖縄週間／沖縄の旅」として対面で行なうべく準備を進めています。3月7日の会議で決まったばかりのことですが、本年の概要をお知らせします。

#### ・沖縄週間について

テーマは「命<sup>ぬち</sup>どう宝<sup>たから</sup>～わたしたちを平和の器にしてください～」です。「命どう宝」は沖縄語で「命こそ宝」という意味の言葉で、もとは琉球処分を描いた戯曲の台詞だと言われており、命は何ものにも代えられない大切なものであるという意味が込められています。沖縄戦ではこの言葉をもとに自決を踏みとどまったという証言もあり、現在も命を尊ぶ心を伝える言葉として継承されています。プロジェクトではこれを毎年のメイ

ンテーマとし、サブテーマで毎年の方向性を表します。コロナ禍、そして一年が過ぎたロシアによるウクライナ侵略(「特別軍事作戦」)に心を痛める日々を過ごすなか、わたしたちが主の平和の器として召されていることを改めて覚えて、本年は「わたしたちを平和の器にしてください」としました。主題聖句として「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し…」(エフェソ2:14-17)を思い巡らせて参ります。

#### ・沖縄の旅について

旅の開催期間は6月23日(金・沖縄慰霊の日)～25日(日)の2泊3日となります。コロナ禍前は参加者が沖縄教区内各教会に分散して一泊を過ごす「分宿」を行なってきましたが、各教会で感染防止対策を含めた受け入れが難しいとの声を受け、分宿分の一泊を短縮しました。またプログラム全体にわたって感染防止に配慮すべく、参加者を20名程度に限定、宿泊は可能なかぎりシングル・ルームとする予定です。その関係から、期間が短くなりますが、参加費用は従来並みとなる可能性がありますので、ご了承ください。

プログラム初日は「沖縄慰霊の日」と重なります。遠方からの参加者を考慮し昼過ぎに那覇空港で集合しますが、沖縄平和祈念公園で行なわれる沖縄県主催「沖縄全戦没者追悼式」閉式後の時間帯ですので、空港や航空機の発着に少々混乱があるかもしれません。ご参加の皆様が迷わず集えるよう、ご案内いたします。集合後は追悼式を終えたばかりの平和祈念公園を訪れ、戦没者追悼、また資料館での学びの時間をもち

ます。また平和祈念公園のある沖縄本島南部には、他にも多くの慰霊塔や自決のあった海岸、ガマ（自然壕。沖縄戦においては避難壕、倉庫、病院となった）等、沖縄戦の悲しみを伝える場が点在しています。また未だ住民や兵士の遺骨、不発弾が眠っている地でもあります。現在の佇まいに身を置き、起こっていることを学びつつ、巡りたいと思います。

2日目はフィールドワークに出かけます。過去には米軍基地の規模を体験する時間を過ごしたこともありましたが、本年の詳細は未定ですが、ここ数年ウイルスによって阻まれていた沖縄の日射しのもとで一日を過ごし、沖縄の現在を、身をもって体験することができればと思います。

3日目は主日です。一同で沖縄教区主教座聖堂の三原聖ペテロ・聖パウロ教会ちやたんの主日礼拝、そして午後は北谷諸魂教会へ移動して沖縄教区

主催の「慰霊の日礼拝」に参列し、解散となる予定です。

プログラムは沖縄教区と日本聖公会正義と平和委員会が共同主催いたします。沖縄教区の方々とも良い交わりが与えられますように。

11月には2023年日本聖公会宣教協議会「いのち、尊厳限りないもの～となりびととなるために～」が予定されています。折々に「命の与え主である主よ」と祈り始めるように、いのちは神様のものです。だからこそ同じいのちを授かるとなりびとが尊く厳かなのです。協議会より一足早いですが、沖縄の歴史と現在、「命どう宝」の言葉から、命が尊ばれる世界～平和～を求めて歩み始めることができれば幸いです。

主にある皆さまに、平和がありますように。

## 日韓協働合同会議の報告

—日韓聖公会宣教協働40周年記念大会などを協議—

日韓協働委員会委員長 主教 アンデレ 磯 晴久

2023年3月14日午後、日本聖公会管区事務所にて、対面とZoomの併用にて、日韓協働委員会と韓日共同委員会の合同会議が開催された。参加者は大韓聖公会側委員長のパク・ドンシン主教（釜山教区）はじめ9名、日本聖公会側委員長磯主教はじめ8名であった。会議は磯主教の開会の祈り、そして両委員長の挨拶で始まった。

パク主教は、マタイによる福音書18:21・22「その時、ペトロがイエスのところに来て言った。『主よ、きょうだいが私に対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。』イエスは言われた。『あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍まで赦しなさい。』」から、この「赦し」はコミュニケーションの回復と考えるとよいのではないか。かつて韓国と日本の間には大きな断絶

があった。大韓聖公会と日本聖公会の40年は、歴史をつなぎ、コミュニケーションをつなげる40年であった。これからもコミュニケーションを深めて歩みたいと話された。

磯主教は、両管区の歩みは、「協働」コラボレーションの40年であったとし、今私たちは「順境の時代」でなく「逆境の時代」を生きているが、それを乗り越えるのも「協働」の力である。今後も両管区で「協働」の業を継続していきたいと述べた。

続いて、両総主事（大韓聖公会は教務院長）から報告があった。

特に、印象に残ったのは、大韓聖公会の取り組みであった。大韓聖公会は、「変わっていく社会、変わらなければならない教会」というテーマ

を掲げて歩んでおられること、法憲法規の見直しや、新型コロナ禍で落ち込んでいる宣教活動を立て直すため、次世代への宣教に力をいれていること、シリア・トルコ大地震の募金活動を行っているが、シリアへの支援が遅れていることから、エルサレム教区を通してシリア支援をしようとしていることなどである。

#### <協議>

##### 1、徴用工問題、

チェ・ジュンギ教務院長より日韓聖公会で共同声明を出すことが提案された。今回の韓国現政権による、韓国側に財団を作り徴用工被害者に補償するというは、被害者の声を聞き、被害者を中心としての補償案ではない。米韓日の軍事同盟の強化のための動きである。更に東北アジアの軍事的緊張を高めることにつながる。40年間日韓聖公会は平和を求めて歩んできた。被害者・加害者の関係に留まらないで、パートナーとしての関係を作ってきた。これからもパートナーとして歩む両聖公会は、このことに関して、立場を明確にする必要がある。声明を出すことに賛成してもらえれば、大韓聖公会で文案を作り、日本聖公会でもそれを検討し、両委員長名で声明文を作成したい。この声明は、両政府に提出するものではなく、両聖公会の立場を表明するためのものとのことで、日本側もこれに賛同し、作業に入ることとした。

##### 2、日韓聖公会宣教協働40周年記念大会について

場所は韓国・済州で開催すること、参加者は日本聖公会50人、大韓聖公会30人規模で行なうことを確認した。テーマについては、日本聖公会総会で確認したように、「和解と一致～命、正義、平和～」である。「和解」という言葉が過去に回帰するニュアンスがあるとの指摘もあり、更に「和解」について議論した。結果、「神との和解」これは福音化の課題、「人間と人間の和解」これは平和と人権の課題、「自然との和解」これは原子力(原発事故や汚染水海洋放出)を含む地球環境の課題と、「和解」について理解を深め

ることができた。アングリカン・コミュニオンの宣教の5指標ともつながってくる。

記念大会の当日の流れとしては、基調講演(話し合うことも大切にする)、日々の聖書研究、交流会、ワークショップ、フィールドワークなどで構成することを確認した。予算に関しては30周年を参考にする。

30周年の反省から、時間がタイトにならないようにすることと交流の時間を大切にすることも確認し、2023年9月18日(月)～20日(水)済州で日韓協働合同会議を開催し、記念大会の中身について、また会議場所、宿泊場所、食事などについて話し合うこととした。

公表している日程、2024年10月7日(月)～10日(木)について、日韓双方の事情で、2週間ほど後の日程に変更する可能性について話し合い、今年6月頃までには開催日時を確定することを確認した。

##### 3、両聖公会共通の宣教課題について

①青年活動:2024年には、40周年を記念した青年大会を実施できないか。できれば参加者をアジアに拡げて開催したい。2023年日本聖公会青年大会には、大韓聖公会青年有志がオブザーブ参加する。

②女性の交流:キム・ヒョン司祭(管区・女性宣教担当)から大韓聖公会の取り組みの報告をして頂いた。セーフ・チャーチ・ガイドラインの韓国にふさわしいバージョンの作成は、日本聖公会同様に苦労している。但し、新型コロナ禍で開催できていなかった神学研修会で、「性認知、性暴力、ハラスメント」に関する学びを全教役者対象に実施したこと。今年は全信徒に実施する予定とのことであった。これは日本聖公会でも早期に取り組むべき課題である。

久しぶりの一部対面での会議で、コミュニケーションとコラボレーションの働きを再確認することができ、パク主教の閉会の祈りをもって終了した。



## 第9回「ハラスメント防止・対策担当者会」を開催

管区ハラスメント防止・対策担当者 南 明美（京都教区）

2023年2月23日(木)10:30～17:00で、日本聖公会管区事務所で開催されました。と言ってもコロナ禍、ハイブリットでの開催となりました。

私自身は管区事務所にかがうのは初めてでしたので、朝に神奈川県大船の友人宅を出た時からドキドキでした。無事に着けるのか、どんな方が集まれるのか、どんな雰囲気の会議なのか…。何とか無事に「神楽坂」の駅につき2番出口を出て、周りを見渡し「聖バルナバ教会」が視野に入った時はほっとしました。さて本題です。

**10:30【開会の祈り】** 皆さんで聖歌 527 番を歌い、金大原司祭がお祈りをしてくださいました。そして西原美香子委員からのオリエンテーション。いつもの会に臨む際の約束事項をお話してくださいました。「人の話をよく聞く」「人の言葉は遮らない」「自分と違う意見も否定せずに聞く」「一人が長く発言しない」……。7つの約束、一つ一つ胸に刻み会にのぞみます。

まず、参加者の自己紹介。それぞれ役と名前だけですが、北から話していただきました。

**10:45【報告1】**「聖路加国際病院チャプレンによる性暴力について」は総主事の矢萩新一司祭がお話してくださいました。被害者の方が日本聖公会へコンタクトを取ってこられてからの経過をお話いただきました。報道でもご存知かと思いますが、病院で直接雇用された日本キリスト教団の牧師が加害者であったということで、日本聖公会として事件にどう取り組むかということも難しかったようです。

**11:15【報告2】** 各教区報告 管区宣教主事の卓志雄司祭の進行で、沖縄教区から順番にお話いただきました。①相談件数 ②対応の課題 ③ハラスメント防止研修の実施 ④今回の担

当者会に期待すること・話し合いたいことを事前に出していただいております、それに沿ってお話しされました。各教区、防止委員会の構成や設立も色々ですし、相談への対応も色々です。今の各教区の状況を一部分だけかと思いますが知ることが出来ました。

**11:50** 午前の終了です。皆さんと一緒に「食前の祈り」を女性デスクの大岡左代子司祭にいただき休憩となりました。

**13:15【報告2の続き】** 午前の各教区からの報告を聞いての質問タイムとなりました。ハラスメントの窓口をどうしているのか？ 受け付けは電話か書面か？ 調査後の報告はどうしているのか？ 外部相談委員の探し方は？ 等々、具体的な質問が出てきました。

**14:00** ここからの進行は、南がさせていただきます。まず、【京都教区の事例からの学び—相談窓口の設置方法、相談の流れと対応のシステム、第三者委員会の設置方法・委員の交渉・費用などについて】京都教区ハラスメント防止委員会の委員長の木村メイ司祭にパワーポイントを使用して、お話いただきました。京都教区ではセクシュアルハラスメント防止委員会が2006年に設置されました。防止委員会に関する規約等も作られ、2016年にハラスメント防止委員会に変更となりました。その後、防止委員会の活動の中で、3種類のパンフレットの作製をされています。規約も含め、いずれも京都教区のホームページからダウンロードすることが可能です。実際の活動の中からのお話でしたので、他教区の方に参考になる部分も多かったようです。質疑応答も非常に活発に行なわれました。(15分の休憩)

15:35【『H元牧師性暴力事件における京都教区による二次加害検証報告書』からの学び】京都教区の検証報告書作成チームの大岡左代子司祭が、パワーポイントに要点をまとめていただいたのお話でした。事前に報告書の109頁にわたる冊子を郵送いただきました。2019年12月から2022年8月までの活動での報告書の要約等を話されました。京都教区にある記録を一つ一つ見直すという気の遠くなるほどの作業をしてこられたことが、お話の中から感じる事が出来ました。報告書の「おわりに」に『「ゆるし」も「解決」も最終的には被害者の選択によるものである。たとえ、被害者が「ゆるす」としても、そのことが加害者側に伝えられる必要もないものである』と書かれています。ついつい、わたしたちは「謝罪してゆるされなければならない」と思ってしまうがちです。

また、『被害者Aさんの願いは、教区が変えられていくことである。京都教区が被害者の要望に応えられるとすれば、これからも本件を通して気づかされた多くの過ちを繰り返さず、力のある立場にある者が、間違った力の用い方をせず、小さな声を聴き、すべての人を大切にする教

区として歩いていく努力を続けることであろう』と書かれています。簡単なようで難しいことだと思います。

16:55【閉会の祈り】入江修主教様がお祈りくださいました。

17:00 終了

ハイブリット開催となった「第9回ハラスメント防止・対策担当者会」、とても充実した会となりました。各教区のハラスメント防止や対策についての体制はいろいろですが、こうして互いの状況等を話ができる機会の大切さを感じました。私自身は、「第1回ハラスメント防止・対策担当者会」が京都で開催された時に、京都教区のハラスメント防止委員の一人として書記として陪席させていただきました。その時よりも各教区がハラスメントについて、考えていこう、対策していこうと動いて行っていることをとても感じる事ができました。また、京都教区の一人として「検証報告書」については真摯に受け止めていきたいと思いました。自分自身、いろんな方と接する時に、公平に、相手の方を大切にできる行動がとれるように心がけたいと思いました。

## ■ ACC - 18 の報告

全聖公会中央協議会 (ACC - 18) : 5つの宣教目標 : 今日と明日

## 2023年 ACCRA (アクラ) の報告

### ACC 担当主教 主教 ダビデ 上原榮正

全聖公会中央協議会(ACC-18)が4年ぶりに、2月12日(日)～19日(日)の日程で、ガーナの首都アクラで開催されました。全聖公会中央会議(以下ACCと表記)は、全聖公会の共同体を支える器であり、一致を図るための4つの会議の中の1つです。4つの会議とは、1. カンタベリー大主教(必要に応じて)、2. 首座主教会議(適宜)、3. ランベス会議(10年に一度)、4. ACC(2、3年に一度)のことで、1～3は主教会議ですが、ACC

だけが主教、聖職、信徒からなる教会全体を代表する集まりになっています。日本からは、上原が管区代表、吉谷かおるさん(北海道教区)が女性・ジェンダー関連代表、小林真子さん(神戸教区)が通訳として参加しました。

#### ・39 管区が参加

聖公会は世界185か国に教会があり、相互依存的な関係として42の管区から成ります。会議には39管区からの代表110人、その他カトリッ

クや他教派からのゲストや各管区主事などを加え、参加者約150名でACC-18は行なわれました。その他に会議、会場のサポートをするためのスタッフや通訳、黄色Tシャツ組の強力な現地ヤングスタッフの助けもありました。残念なことでしたが、今回もナイジェリア、ルワンダ、ウガンダの教会が同性愛や同性婚への立場の違いから不参加となりました。



### ・「宣教の5指標」を学び語る

会議は各ホテルで朝食を取った後、会場のマリオットホテルに集い、約10人1グループで14のテーブルに分かれて行なわれました。ACCでは会期中は同じテーブルで、同じメンバーと過ごしますので、良い話し合いと良い関係を築くことができましたと思います。

日程は、AM8:30から朝の祈り、聖書研究と「宣教の5指標」の学び、セッション。PM12:30から聖餐式、昼食、セッション、各委員会から報告、決議。PM5:30・夕の祈り、夕食、常任委員会会議。PM8:00からの夜の祈りで終了です。毎日が祈りで始まり、聖餐式によって養われ、祈りで1日を終えました。

会期中、私たちの日々は祈りと聖書のみ言葉によって導かれ養われていました。信仰生活と言いながら、普段の生活では、忙しさにかまけて祈りもみ言葉も忘れてはいないかと、改めて問われたようでした。祈りとみ言葉から離れた生活が、教会の宣教にも影響し、感謝や喜びに満ちた生活とはほぼ遠いものとなってはいないか、見直しの必要を感じました。

聖書は、「宣教の5指標」に合わせてマルコ福音書から学びました。「宣教の5指標」は、1、語

る。「神の国のよき知らせを宣言すること」(マルコ1:9-15)。2、**教える**。「新しい信徒を教え、洗礼を受け、養うこと」(マルコ1:16-20)。3、**仕える**。「愛の奉仕によって人々の必要に応答すること」(マルコ1:21-39)。4、**変革する**。「社会の不正な構造を改革し、あらゆる暴力に反対し、平和と和解を追求すること」(マルコ2:23-3:6)。5、**大切に**にする。「被造物の本来の姿を守り、地球の生命と維持・再生するために努力すること」(マルコ4:1=2, 24-36)。宣教の指標の1つ1つをグループで討議しました。



聖書の学びから知ったことは、日本では「宣教の5指標」を、差別されたり、障害を感じることなく、実行出来るということです。恵まれていることです。しかし、国や教会の置かれている状況や違いによっては、教会や信徒が外で何かを語り、催しや行事などを行なうのに、公の許可がなければ何もできない国もあります。また洗礼を受けクリスチャンとなることで、家族や親戚、地域社会などのコミュニティから排斥、排除される所もあります。各管区の教会が、状況、立場によっては、困難で深刻な状況を抱えながら宣教をしているかを知らされました。宣教に制限のある国の参加者からすれば、今の日本は解放された、何でも自由の天の国のように見えるかもしないと思いました。日本もかつて、宣教・伝道の困難な時代がありました。このような時代だからこそ、私たちはより宣教に熱心になりたいものです。

### ・カンタベリー大主教による

#### 「和解のセレモニー」

ガーナはアフリカ西部にある国で、世界的に

はガーナチョコレートで知られていますが、日本では野口英雄が黄熱病の研究をして客死した国としても有名です。1979年には、野口英雄の功績を讃えて、「野口記念研究所」が設立されました。人口は約3,100万人、アフリカ諸国の中では政治、経済的に比較的に発展している国とされています。

コロンブスの大西洋横断以降、アフリカにはスペイン、ポルトガル、オランダ、デンマークなどがやってきて、ギニア湾に面した海岸に交易の拠点が築かれます。以来アフリカから多くの奴隷が、南北アメリカやヨーロッパに送られました。また内陸部で黄金が発見されたことから、ガーナの海岸は黄金海岸と呼ばれて発展していきます。19世紀にはイギリスがアシヤンティー王国を滅ぼし植民地とし、搾取が始まります。第2次世界大戦後、1957年、初代大統領クワメ・エンクルマの指導のもので独立しますが、政治情勢は二転三転して混迷します。しかし、軍政から民政に移行して、1990年代以降情勢は落ち着き、自由選挙が行なわれ議会制民主主義国家として安定しています。

特筆しておきたいことは、今ACC-18では、ガーナのケープ・コーストにあるクライスト・チャーチ大聖堂で、カンタベリー大主教によって和解のセレモニーが行なわれたことです。

ケープ・コースト城は海岸に隣接して建設されており、大勢の奴隷が売買され船で送り出された所です。ガーナも独立していますが、宗主国と植民地だったイギリスとガーナとは、日本と中国、朝鮮やアジア諸国とのように複雑な国民感情があるように感じました。

そのケープ・コースト城の近くにあるクライスト・チャーチ大聖堂でカンタベリー大主教の司式の下で、和解のセレモニーが行なわれたことは大きな意味があったと思います。ACC-18のメンバーは、歴史的な場面に立ち会ったのだと感じました。

#### ・新議長と常任議員の選出

ACC-18では、アングリカン・コミュニオン・オフィス総主事のアンソニー・ポッグ主教の報告、



日本聖公会からの参加者

聖公会の伝道・弟子訓練委員会、神学教育、科学委員会、セーフ・チャーチ委員会、ファミリー・ネットワーク、信仰・職制常任委員会、インターフェイス委員会、典礼協議会などの報告、正義と平和ネットワーク、エキュメニカル関係と対話、ジェンダー平等、先住民ネットワーク、環境ネットワーク、ユースネットワーク、ランパス報告「神の世界のための神の教会—ともに歩き、聞き、見る。」などの報告と決議がなされました。

ACCの会長はカンタベリー大主教ジャスティン・ウェルビー大主教ですが、議長、副議長、常任委員は毎回選挙で選ばれます。常任委員はジェンダー、年代、職位なども考慮されて立候補と選挙が行なわれます。ACCの新議長にマギー・スウェイン主教（イギリス）、それに新しく6人の常任議員：ムゲニ・ウイリアム・バヘムカ主教（コンゴ聖公会ボガ主教区）、イナマル・コレア・デ・ソウザ司祭（ブラジル聖公会）、ツ・ルアング・ビリー・イブ司祭（香港聖公会）、アンドリュー・クワン・ホック（東南アジア聖公会）、アイシ・サマ・ドロンク（バングラデシュ教会）、ウエンディ・スコット司祭（アオテアロア・ニュージーランド・ポリネシア聖公会）の諸氏が選出されました。

最後に、次回のACC-19はアイルランドで行なわれることが報告され、ACC-18は会を閉じました。

その詳しい内容につきましては：

<https://acc18.org/> からご覧になることができます。聖書研究などでは、日本語翻訳もありますので、是非ご覧くださいと思います。

## ■第4回 USPG 国際協議会の報告

## USPG 国際協議会（タンザニア）に出席して

—現代の人身売買は誰がつくっているのか—

管区事務所総務主事 アンナ 金子登美江

2023年1月30日から2月2日まで、タンザニア連合共和国のダルエスサラームで「私の民を自由に：人身売買に反対する教会の呼びかけ (Set My People Free: The Call of the Church against Human Trafficking)」をテーマとするUSPG (The United Society Partners in the Gospel) 主催の国際協議会が開催され、前後プログラムも含む8日間、渉外主事のウィルソン司祭の通訳に助けられながら参加いたしました。

この協議会は3年に一度開催され、今回は4回目です。今回の協議会はタンザニア聖公会がホストとなり、フィリップ・ムパンゴ副大統領による開会宣言にて幕を開けました。協議会には15名の首座主教を含む管区の代表者が29名とタンザニア聖公会関係者、近隣管区の参加者、登壇者、通訳、スタッフが約30名、全体で60名ほどが集い、学びと交わりの時を持ちました。

タンザニアは19世紀の東アフリカ奴隷貿易の中心地であり、現在は政官民を挙げて現代奴隷制の撲滅に積極的に取り組んでいます。そのような事からこの地での開催は人身売買の学びの上で大変意義のあるように感じました。タンザニア聖公会のマインボ首座主教さまやタンザニア聖公会の皆さま、ご準備くださったUSPGの総主事ダンカン司祭さまを含むスタッフの皆さま、またお祈りお支えくださった日本聖公会の皆さまに心より感謝申し上げます。

## ・貴重な学びの場

協議会では過去と現在の人身売買や奴隷制度に関して学びました。中でも旧奴隷市場の見学は残酷な歴史を体感する上で大変貴重な経験となりました。ダルエスサラームからフェリーに乗り約1時間で到着するザンジバル島では1873年に閉鎖されるまで奴隷市場がありました。現在その跡地にはタンザニア聖公会のクライス

トチャーチ大聖堂が建てられています。敷地内には奴隷を閉じ込めておいた地下牢がそのまま遺されていて、歴史を学ぶ史料館となっています。地下牢は地面に穴を掘ったような部屋で天井は低く、光はほぼ入りません。決して広くない部屋は男性部屋、女性と子ども部屋に別れ、それぞれ50名ほどが押し込められていました。トイレもなく、空気は薄く、室温は高く、希望はありません。奴隷たちは東や北アフリカから集められ、ザンジバルの港から中近東やインド洋の各地域に送られました。食事も水もあまり与えられない過酷な旅程の中で半数以上が亡くなられたそうです。ザンジバルの港から広がるインド洋の美しい海は奴隷とされた人々が二度と故郷に戻ることなく送られていった深い悲しみの記憶を湛えています。

## ・コフィ博士の体験談

現代の裏社会の三大収入源は、麻薬・武器取引・人身売買で、それぞれ大きな収入源として経済が確立されているそうです。現代奴隷の人数は4,000万人と5,000万人とも言われていますが、実態は分からずもっと多いことが推測され、残念ながら増加傾向にあります。

現代の奴隷制の被害者は強制労働と強制結婚が主な囚われ先です。また、耳を疑いましたが、中には臓器の売買も行なわれています。男性や男児は兵士、炭鉱や農園や漁業の労働者として、女性や女児は家政婦、性ビジネス、工場での労働者として従事させられています。サプライチェーンは強制労働の一つの温床となっており、特に女性と子どもはぜい弱な状況に置かれています。自分が何処に居るのさえ分からず、また、奴隷の立場に置かれていることも知らない場合が多いとのことでした。

奴隷サバイバーであるコフィ博士の体験談は

凄絶でした。6歳の時に家族によって売られた先では過酷な漁師の仕事が待っていました。ろくに食事が与えられず、常に拷問を受け、早朝から夜遅くまで命の危険を感じるような強制労働が課せられました。マラリアや血尿は日常茶飯事、健康状態は常に悪く、劣悪な環境下にありました。13歳の時に逃げ出し、教育を受け、仕事を、現在は子供の奴隷制に対する撲滅活動をなさっています。6歳の時一緒に売られた子供たちはもしかしたら今は人身売買をする側になっているかもしれないという言葉が重く心にのしかかりました。

#### ・ 私たちの日々に繋がる現代奴隷制

先述のサプライチェーンの強制労働という文言から気が付かれた方もいらっしゃるかもしれませんが、食品小売企業が提供している安くて美味しい食べ物や、アパレル企業が販売している安価で素敵な衣服の多くは現代奴隷制による強制労働の果実です。私たちは無意識のうちに購入することで強制労働を支持しているに他なりません。日本に暮らしていると人身売買、強制労働は遠い国の話に思えるかもしれませんが、不平等な働き手の姿は見えなくされているだけで、私たち日々の生活と密接に繋がっています。

人身売買や現代奴隷制を撲滅する上で、Prevention(防止)、Protection(保護)、Prosecution(起訴)、Partnership(協働)が大事であると学びました。Prosecution(起訴)の方法の一つとして不買運動があります。不当な強制労働の結果に対し、買わないという姿勢で訴えることで、個人でも反対運動ができるのです。

また、英国では2015年に現代奴隷法が制定され、企業に現代奴隷や強制労働に対する透明性の高い取組を求めるようになりました。ヨーロッパ諸国も追随し始め、強制労働の撤廃は企業価値を高めるための課題となりつつあります。

#### ・ 人身売買の蔓延

人身売買の蔓延にはさまざまな理由がありますが、そのひとつに、人身売買事件の起訴が難しいということが挙げられます。法執行機関や法律の専門家は、人身売買の構成を「行為:Act(採用、輸送)、手段:Means(武力、脅迫、誘

拐)、目的:Purpose(強制労働による搾取と利益のため)」に当てはめ、これらを用いて司法の面からも人身売買の撲滅を目指しています。また、昨今は地球温暖化による気候変動の影響により生活が困難になり、人身売買、強制労働へ陥るケースが増えています。グローバリズムの掛け声で発展した資源や命を搾取しながら維持していく現代の社会システムは見直しの時期を迎えているのかもしれない。



聖アンデレ教会(ダルエスサラーム)

#### ・ 多文化交流の協議会での賜物

協議会を通して過去の奴隷制度を体感し、現代奴隷制度や人身売買について学び、聖書を紐解きながらクリスチャンとしての指針を深め貴重な知識を得ました。しかしながら、はたして、日本に持ち帰った時、日本聖公会でどのように人身売買に関して語ることができるであろうかと自問しました。そこで、グループディスカッションの時間に、気候変動なら日本の教会でも語ることは容易だが、人身売買となると語るのは難しく感じる。と発言したところ、北インド教会のサミール主教さまが気候変動も最初は多くの人が無関心だったが、今は当たり前のように話題にしている。人身売買も同じことだ。とご発言くださいました。その言葉に、確かにそうだ、行動の積み重ねで社会は開かれるのだ!と、心に光が灯ったように感じました。他にもスワヒリ語での躍動的なお礼拝に参列し、ウェールズ語やハングルでの祈りに触れ、お茶や食事の時間の他愛のない会話など、世界中から集められた聖公会の皆さま

との多文化交流もこの協議会での賜物であり、私自身が強められる思いがしました。

\* \* \*

最後に、世界教会協議会(WCC)において長年議長を務められたケニア聖公会のアグネス博士のご講演の一部、「聴く(Listen)ことを意識する」のメッセージをお伝えし、皆さまとの旅を思い描き筆を置きたいと思えます。

聴きなさい、人身売買を誰がつくっているのか。聴きなさい、そこから見えてくるのは何であるか。聴きなさい、何故自分は関心を寄せているのか。そしてどのように生きようとするのか分析しなさい。行動に移しなさい。奴隷とされている人たちは、神様はどこにいるのかと疑っているだろう。何故見捨てたのかと。神は見捨てたのではない。人間から抑圧されているだけなのだ。サンクチュアリを目指し、人身売買を廃止するために働き、人身売買から利益を得ていないか意識しなさい。自分の内なる声に耳を澄まし、素晴らしい世界を創造する旅を一緒に歩みましょう。



クライストチャーチ大聖堂(ザンジバル島)



大聖堂に残される「奴隷牢」

## ■第4回 USPGE 国際協議会の報告

### 私の民を解放しなさい：人身売買に対する教会の呼びかけ

‘Set My People Free: The Call of the Church against Human Trafficking’

管区事務所渉外主事 司祭 ウイルソン ウォーレン

3年ごとに行なわれる第4回USPGE国際協議会に日本聖公会の代表として参加の管区総務主事金子登美江姉と共に、通訳者として参加させて頂きました。

今回は、タンザニアのダルエスサラームで開催されました。1月26日に日本から出発し、8日間(協議会は5日間)滞り、全期間を通して大変勉強になりました。行くまでは「人身売買」について歴史的な出来事として考えていましたが、協議会に出席したことによって現在も「人身売買」が、身近にある問題であると意識をするようになりました。

#### ・USPGEが今日に至るまで

まず、主催団体USPGEについて簡単に紹介いたします。USPGE (United Society Partners in the Gospel) は、1701年に北米への宣教活動のために設立された Society for the Propagation of the Gospel を前身としています。1965年には、1857年に設立された中央アフリカ大学宣教会 (Universities Mission to Central Africa) と統合され、USPGEが設立されました。両機関の宣教師は、アングリカン・コミュニオンを構成する42の加盟教会の多くの設立に関わり、場合によっては中心的な役割を果たしました。この

ような歴史の結果、USPGはアングリカン・コミュニケーションのほぼ3分の2の教会と長年の関係を築いています。

USPGは、創立300周年以降の間に大きな変化を遂げました。2012年には、USPGがより開拓に近い活動パターンへと方向転換が行なわれました。

2016年、USPGの「P」がpropagation (=布教事業)に代わってpartnership (=協力関係)となりました。

#### ・ アフリカでの開催

今回の協議会には世界中の聖公会や聖公会と特別関係がある教会から多数の首座主教や主教を含む50名以上の参加者が集まりました。現地に着いて一泊休んでから土曜日に海沿いにある人口5～6百万人であるダーエスサラームの主教座聖堂にて挨拶と自己紹介等があり、町の案内をして頂き、魚市場を訪問しました。

翌日の主日に協議会参加者は5つのグループに別れ、それぞれ地元の教会の主日礼拝に出席しました。印象的な礼拝の仕方でした。私達が参加した礼拝は4つの聖歌隊の奉仕がありました。「アフリカだ」と感じさせられるような元気、熱心、エネルギーが伝わる、ハーモニー豊かな声が響いて、天国に届いていると思わせられる心に響く郷土歌謡的な賛美や日本の教会で聞くような聖歌のメロディーもありました。そして、言葉(スワヒリ語)が分からなくても、「聖公会だ」と分かるような礼拝でした。

#### ・ 主教座聖堂と奴隷牢

火曜日はザンジバルを訪問しました。1964年、タンガニーカと言う国はザンジバル島と統合し、タンザニア連合共和国となりました。ザンジバルはタンザニアと政治同盟を結んでいる半独立の領土です。独自の議会と大統領を持っている。130万人が島で暮らしている。タンザニア本土ではキリスト教が多く、ザンジバルではイスラム教が多いです(90%と言われます)。

ザンジバルのクライスト・チャーチ主教座聖堂を訪問し、そこにある奴隷牢を見ました。大聖堂は、東アフリカ最大の奴隷市場があった場所に建てられました。祭壇は、まさに売りに出された奴隷が鞭打たれた場所に置かれていました。外には、4人の首がつながれている彫刻があり、

奴隷が買い手に差し出される様子を再現しています。それは見るからに痛々しい姿でした。

幸いにこのような奴隷売買は1873年に禁じられましたが奴隷制度は、形を変えて今もなお存在します。全世界で4,000万人近くが今も奴隷として生きていると言われていています。アフリカでは数十万人です。日本を含めて世界中で多数の人が自分の意思に反して奴隷にされ、労働を強いられ、強制結婚させられ、性的搾取を受けているのです。

#### ・ 解放され、自由に生きるために

協議会では聖書研究から始め、タンザニアの副大統領や入国管理総監等からお話を聞きました。そして、発表を受け、ディスカッションをしながら現在の人身売買問題について理解を深めることが出来ました。

まず、人身売買と現代奴隷制(Human Trafficking and Modern Slavery)の本質について教えられ考えました。人身売買と現代奴隷制には3つの特徴があると言われます。

- ① 行為(Act): 人の募集、輸送、移送、収容・受け取り
- ② 手段(Means): 搾取を目的として、他者を支配する者の同意を得るために、力または他の形態の強制、誘拐、詐欺、欺瞞、権力または地位の乱用、支払いまたは利益の授受による脅迫または使用によって人身売買が行なわれる方法。
- ③ 目的(Purpose): 他人の売春またはその他の形態の性的搾取、強制労働またはサービス、奴隷制または奴隷制に類似した慣行、隷属または臓器摘出の搾取

この定義にもとづく多くの人身売買の行為が該当します。— サイバー人身売買、債務束縛、家事奴隷、早婚・強制結婚、強制犯罪、強制労働、臓器売買、性的搾取、海上での奴隷、テロ目的の人身売買等。

一見すると、これらは日本に暮らしている私たちの状況とは関係ないように見えるかもしれませんがよく考えると日本でも人身売買と思われることが確かにあります。この協議会に参加したことによって私の目が開かれました。次は、私はどうしたら良いかと考えなければなりません。

アングリカン・コミュニケーション宣教の5指標の3



番目は「愛の奉仕によって人々の必要に応答すること」です。これを果たすため、協議会では今後の対応について多くの示唆や考えがありました。各地域から発表があり、現在のプロジェクトや働きを紹介しました。大変大きな問題ですが、先ず、意識と理解を高めてから小さなことでもできることから始めれば良いと思います。既に働き始めている所と協力することで自分は何ができるかと段々気づくこともあります。そして、キリスト者として、祈ることを土台にすることができます。特に以下の日を覚えてお祈りをしましょう：

- 7月30日 世界人身売買に反対する日
- 9月26日 世界移民と難民のための日
- 10月18日 奴隷解放記念日
- 10月17～23日 奴隷制反対週間

今後は自分にとって、そして日本聖公会にとって協議会の最終コミュニケに宣言されたようなことを望みます。(以下は協議会の最終コミュニケの部分抜粋)：

人身売買と現代の奴隷制、そしてそれらに関連する複雑な問題について詳しく知ること。家庭、教会、地域社会で、この問題に対する意識を高める責任を持つこと。過去と現在における人身売買と現代奴隷制への我々の加担を公に認め、より良く理解するよう努める。人身売買と現代の奴隷制に取り組むために意図的に協力する。

すべての民、人類、人びとが神にかたどって創られたものとして解放され、自由に生きることが出来ますように。



女性参加者にタンザニアのスカーフのプレゼント



金子とウィルソン、皆で聖歌 260 番を歌う



協議会参加者、ザンジバルの主教座聖堂にて

**■ ALNEAの報告****聖公会東アジア礼拝協議会(ALNEA)に参加して**

＝ 東アジア聖公会共通の「感謝聖別文」作成についての検討 ＝

広島復活教会 司祭 バルナバ 永野拓也

2月7日(火)から10日(金)まで、聖公会東アジア礼拝協議会(Anglican Liturgical Network in Asia, ALNEA)総会が、台湾聖公会(米国聖公会第8管区台湾教区)の聖ヨハネ主教座聖堂を会場に開催されました。

2018年に東京で開催されて以来の対面での総会となった今回は、大韓聖公会1名、香港聖公会4名、フィリピン聖公会2名、そして日本からは礼拝委員と祈禱書改正委員の中から5名が参加しました。そして台湾聖公会では、今回の協議会を教役者修養会の機会とし、すべての教役者や神学生も参加していただき、心温まる歓迎を受けました。

**・ 共通の「感謝聖別文」の作成**

今回の総会開催の経緯は、ALNEAがコロナ禍においても定期的にリモートで会合を重ねてきたことにあります。私の知る限りでも、昨年リモートで開催された聖公会国際礼拝協議会(International Anglican Liturgical Consultation, IALC)以降、数ヶ月ごとにリモートで会合を重ね、情報交換や議論を重ねてきました。

その中の重要なテーマとして、東アジアの聖公会が、共通の「感謝聖別文」を作成することについての検討が続けられてきました。しかし、リモートでは、具体的な作業に着手することに困難を感じたため、総会に合わせて作業を進めることが決められました。したがって今回の総会は、「東アジアの聖公会が礼拝で用いる共通の『感謝聖別文』について作業する」というのが主な目的でした。

**・ 総会での討議の内容**

総会は、開会聖餐式から始まり、参加した管区の近況報告が行なわれました。礼拝に関する事柄の中で印象的であったのは、いくつかの管区から「礼拝時の所作等の規定」の作成を検討

しているとの報告がされたことでした。日本聖公会の歴史的背景を考えると、統一の規定を導入することは難しいかもしれませんが、引き続き情報を共有していただく中で、参考にできることがあるように感じました。

二日目からは、本格的な討議に入っていました。まず初めに香港聖公会の林振偉司祭から「書物を用いて礼拝するとは？」という題で発題が行なわれました。祈禱書が私たちに語りかけている事柄が何なのかということが共有されました。その本質にあるのは、「聖書のみ言葉」であることが確認されました。私たちが聖書のみ言葉から受け取ったメッセージに、祈りとして応答していくこと。それを書物にしたものが祈禱書であることが丁寧な説明を通して共有されました。

その後、大韓聖公会の朱洛炫司祭と台湾聖公会の梁凡偉司祭から、アジアの文脈の中で共通の感謝聖別文を作成することの意義と課題についての問題提起がなされました。切っても切り離せない関係の東アジア諸国ですが、一方で異なる文化や歴史を持っています。また、各国内でも世代間の歴史認識の違いがあることも共有されました。その後、グループに分かれての作業に入りました。そこでは、東アジアの歴史や文化の文脈の中で「創造」が意味することについて、それぞれの国の神観、聖書が語る「贖罪」についてなど、幅広い意見が交わされました。

三日目は、市原信太郎司祭から「アジアの祈禱書における感謝聖別文」という題で発題があり、東アジアの聖公会の祈禱書改正の歴史、そして各国の現行祈禱書の感謝聖別文について解説がされました。また、共通の感謝聖別文から、私たちが望むことは何なのかという問題提起がされたことも加えたいと思います。その後、朱洛炫司祭から、前日のグループディスカッションを



元に、「感謝聖別文における文化的な問題」という題で発題が行なわれました。感謝聖別文において欠かすことのできない「アナムネーシス」「アナフォラ」「エピクレーシス」という用語を抑えつつも、各々の文化の中で感謝聖別文が用いられることの意味を考えるきっかけが与えられました。

特に1996年にルーテル世界連盟(LWF)が発表したナイロビ声明(Nairobi Statement)における、礼拝と文化の関係性についての4つの要素(礼拝は1.文化を超え、2.文脈的であり、3.既存の文化を変容するものであり、そして4.異なる文化間のものである)が紹介されたことは、大きな学びとなりました。同じ「東アジア」「聖公会」といっても、異なる文化の中に生きる私たちが、共通の感謝聖別文を用いるためには、互いの信仰や経験を分かち合いながら、共通点を見出し、そして言葉化していくという作業が必要であることが理解できました。午後からは、再びグループディスカッションを行ない、各々の文化や言語的な特徴、そして現在の社会的状況などを分かち合いました。その後、閉会聖餐式を行ない、夜にはフィリピン聖公会のトマス・マデラ司祭の「若い世代の人々と共に礼拝を行なうことの困難と課題」という題で、公開講座が行なわれました。聖餐式の原型は、イエスのどのような行ないにあったのか、そこに原点があることを改めて考えるきっかけになりました。

## ・これからに向けて

以上の日程を終え、台湾聖公会の主日礼拝に出席し、無事帰国することができました。今回の会議の収穫は、これまで感謝聖別文を共同で作成してきたメンバーや、祈祷書改正を行なっている委員の方々と、改めて礼拝や聖餐式、祈祷書の本質について共有できたことにあると思います。具体的な作成作業は、各国に持ち帰り進められることになりましたが、共通認識の元、各管区ごとに原案を作成することとなります。私たちも、今回学んだことを踏まえ、改めて日本の現在の文脈の中で感謝聖別文の試案を作成する作業に入ります。

改正祈祷書が、日本社会の中で、そして日本という文脈を超えて福音を語るものになっていけるよう、道のりは決して平坦ではありませんが、着実に作業を進めていきたいと思えます。

ALNEA総会参加にあたって、さまざまな支援をいただきましたこと、この場を借りて感謝いたします。今回得た学びは、祈祷書改正の範疇に留まらず、神の宣教に参与するために用いていきたいと思えます。

\*日本聖公会からの参加者:

- 司祭 永谷 亮(北海道)
- 司祭 市原信太郎(中部)
- 司祭 成岡宏晃(大阪)
- 司祭 林 和広(神戸)
- 司祭 永野拓也(神戸)



## 世界の聖公会の動向

- ☆ グローバル・サウスの大主教たちがウェルビー師の指導的役割を拒否し、  
アングリカン・コミュニオン「リセット」を主張
- ☆ 南部アフリカの主教団、同性カップルへの祈りを同意するも、  
祝福や結婚を奨励せず
- ☆ 米国聖公会第25代総裁主教が逝去

### 管区事務所渉外主査

司祭 ポール・トルハースト

#### ○グローバル・サウスの大主教たちが、ウェルビー師の指導的役割を拒否し、アングリカン・コミュニオン「リセット」を主張

アングリカン・コミュニオンの42管区のうち10管区を代表する保守派の大主教たちが、2月20日、英国聖公会が同性婚の祝福を認める決定をしたことをめぐる声明を発表した。それは構造的な「リセット」（＝再設定・置き直し）の表明であり、世界の聖公会におけるカンタベリー大主教の歴史的指導者の役割の継続を拒否するものであった。

大主教たちは、主にアフリカとアジアの聖公会を中心とした「聖公会グローバル・サウス共同体」(Global South Fellowship of Anglican Churches) という組織を名乗り、ジャスティン・ウェルビー・カンタベリー大主教を、もはや「同位者中の首位者」として認められないと述べ、同性愛を禁じる聖書の一節を保守的に解釈していることをその理由とした。

彼らは、ウェルビー師が「もはやコミュニオンの『リーダー』ではない」とし、「コミュニオンを伝統的な聖書解釈のもとに据え直すために、各国聖公会の他の正統な首座主教と速やかに会い、協議・協力する」と述べた。

この声明に署名した10人の大主教には、アングリカン・コミュニオンの一部として認められていない独立した管区である北米聖公会とブラジル聖公会の2人の大主教が加わっている。グローバル・サウスの指導者の多くが賛同しているが、全体ではなく、少なくとも他のグローバル・

サウスの10管区の指導者は声明に署名しなかった。英国聖公会の総会は2月上旬に、同性婚に祝福を与える議案は承認したが、管区内の教会における同性婚を容認するまでには至らなかった。英国では2014年から民法で同性婚が合法化されている。カンタベリー大主教は英国聖公会の長であるが、自身は祝福を行わないとしている。

保守派の大主教らの声明は、ガーナのアクラで2023年2月12日から1週間にわたって開催された、ACC-18（全聖公会中央協議会・Anglican Consultative Council）の結論とも関連している。ACCはアングリカン・コミュニオンの4つの器の一つであり、他の3つは、首座主教会議、聖公会の主教らによるランベス会議、「一致の焦点」としてされるカンタベリー大主教である。

ACC-18では、3つの管区が欠席したことにより、いくつかの管区間の関係悪化が明白となった。ナイジェリア、ウガンダ、ルワンダの3管区の指導者は、一部の管区がゲイやレズビアンへの聖職者を叙任し、同性カップルの結婚式や祝福を採用していることに抗議し、少なくとも15年間、コミュニオンの器に参加していない。

2月14日、ACCは「良き分化 (good differentiation)」に関する議案を承認した。それは「可能な限り共に歩むことを追求し、エキュメニカルな対話から忍耐強く敬意を持って、分化への方法を学ぶ重要性を確認する」ものであった。この決議によって、アングリカン・コミッションは、コミュニオンの器について変更の可能性を示すよ

うな提案作成を課された。

グローバル・サウス共同体の一部の指導者は、昨夏のランベス会議でも同様の問題を提起し、LGBTQ+の人々を十全に教会生活へ迎え入れている管区に対し、継続的な批判を行なっている。

その際、同共同体の議長である南スーダンのジャスティン・バディ大主教は、LGBTQ+の人々をどれだけ受け入れているかによって、管区間の「親交の度合い」が異なる可能性を示唆した。「修正主義的な管区が真に悔い改めなければ、私たちは悲しいかな、『不完全な共同体』の状態を受け入れざるを得ないだろう」と述べた。

2月20日付の声明の署名者たちは、こうした思いをさらに増幅させ、「我々は修正主義的な管区と『共に歩む』という考え方をまだ許容できない」と述べている。大主教たちはアングリカン・コミュニオンの分裂や脱退を意図しているわけではなく、「離れるつもりはない」としたが、その立場表明は全42管区でどこまで一致できるのか、新たな不安をもたらすものであった。

「グローバル・サウス共同体の首座主教たちは、目に見える教会の一致とアングリカン・コミュニオン組織は維持していきたいとしているが、『聖なるレムナント(残存者)』としての私たちの使命は、歴史的信仰から離れ、誤った教えの道を歩む管区との『交わり』を持つことを許さない」と述べた。

これに対しアングリカン・コミュニオンのアンソニー・ポグゴ総主事は文書で声明を出し、「悲しみ」を表明する一方で保守的指導者たちの「率直さと誠意」に感謝の意を示した。

ポグゴ師は、「共に歩むという約束は、2016年の首座主教会議においてなされ、結婚の教義が変わったいくつかの管区との距離はあるものの、一緒に歩むという決意であった。その後の首座主教会議、昨年ランベス会議、そして最近のACCでも、繰り返しその決意は表明された」と述べた。

ポグゴ師はまた、保守派の大主教たちが「コミュニオンから離れない」と誓ったことを強調し、「この真実の言葉がコミュニオン全体を触発し、今後数年間、私たちの共有する信仰と秩序

の誠実な改革と刷新の働きに参加できるように祈ります」と付け加えた。

ウェルビー師の要請に応じ、ポグゴ師は新しい未来に向け、「コミュニオンにおけるカンタベリー大主教の役割」についての議論を含めた首座主教会議を整えると述べた。

### ○南部アフリカの主教団、同性カップルへの祈りを同意するも、祝福や結婚を奨励せず

このほど、南部アフリカ聖公会の主教団が同性カップルのための特別な祈りをまとめる決定をしたと、ケープタウンのタボ・マクゴバ大主教が発表した。主教会では、同性の市民婚のカップルに牧会的ケアを提供するのにふさわしい正式な祈りを準備することに同意したとマクゴバ師は述べた。

しかし同時に、教会の礼拝で同性婚を祝福することについて主教団は合意に至らず、同性カップルの教会での結婚は否定されたと、マクゴバ師は指摘した。

総会は先週、3年ぶりに対面で開催された。会議では各教会において同性婚を正式に祝福することを認める提案が検討されたものの、最終的な合意には至らなかった。しかし、声明の中で「主教会の分裂はそのまま教会全体の分裂であり、私たちはこの課題においては互いに平和ではない」と述べている。

これに対しマクゴバ師は、教会がすでに同性カップルの子どもたちに洗礼を施し、LGBTQ+の信徒たちに堅信を授けていることを指摘した。そして「すべての忠実な人々のため、私たち全員が同意できる肯定と受容の祈りを創りあげる」と求めた。

総会は彼の提案に同意し、主教団は9月の次回会合までに正式な祈りの草案を検討し、他の聖職者や信徒たちを代表する教会統治機関に提出する予定である。

### ○米国聖公会第25代総裁主教が逝去

第25代米国聖公会総裁主教であるフランク・トレーシー・グリスウォルド3世主教が、3月5日ペンシルベニア州フィラデルフィアで逝去された。

グリスウォルド師は85歳で、1997年の第72回

総会でエドモンド・ブラウニング主教の後継者に選出されたとき、シカゴ教区の主教であった。1998年1月10日に正式に就任し、2006年11月1日にキャサリン・ジェファーツ・ショーリ師に引き継がれるまで在任した。「 그리스ウォールド主教のご家族のため、また第25代米国聖公会総裁主教として卓越した忠実さをもった神への奉仕に感謝し、私たちすべてのためにお祈りください。 그리스ウォールド主教の魂と逝去されたすべての方々の魂が、神の慈しみによって安らかに憩い、栄光のうちに上げられますように」と、マイケル・カリー総裁主教は声明を発表した。

그리스ウォールド師は1994年の総会で任期が12年から9年に短縮された後、初めて就任した総裁主教であった。

エキュメニカルな宗教間の活動で知られ、アメリカ福音ルーテル教会と米国聖公会間のフル・コミュニケーション関係を築く手助けを行なった。

また、聖公会・ローマカトリック国際委員会(1999年～2004年)と聖公会・ローマカトリック米神学協議会(1992年～1997年)の共同議長を務めた。

彼の在任中はエキュメニカルな関係を深めた功績が顕著だったが、一方で世界中の聖公会では内部で鋭い意見の相違に悩まされた。2003年にはニューハンプシャー教区がアングリカン・コミュニケーションで初めて、同性愛者であることを公

言するジーン・ロビンソン師を主教に選出したため、特に反対運動が行われた。

主教会と代議員でロビンソン師の選挙が行なわれたとき、両者の過半数が同意した。ロビンソン師に投票した理由について、 그리스ウォールド師は「ニューハンプシャーの人々の圧倒的な支持に従うことに、何も支障はないでしょう」と語った。

2003年11月2日、厳重な警備と反対運動の中、 그리스ウォールド師はロビンソン主教の按手式と着座式を執り行なった。

그리스ウォールド師は退職後、幅広い精神的伝統に基づく教育、説教、執筆、講演、リトリートの指導などの活動を国内外で継続し、さまざまな神学校や大学の客員教授も務めていた。

그리스ウォールド師は1963年に聖職に叙階され、ペンシルバニア教区の3つのパリッシュで奉仕した後、1985年にシカゴ教区の主教補佐に選出され、1987年10月、ジェームズ・W・モンゴメリー主教の退任に伴い同教区の主教となった。

同師には、配偶者のフィービー、娘のイライザとハンナ、そして3人の孫がいる。



## BSA セミナーのご案内

主催： 日本聖徒アンデレ同胞会 (BSA)  
 後援： 日本聖公会  
 タイトル：「祈り・連帯－テゼ共同体から学ぶ－」  
 講師： 植松 功氏 (東京教区・聖マーガレット教会・BSA 会員)  
 日時： 5月27日(土) 正午～  
 会場： 東京教区 聖アンデレ教会  
 方式： 対面+YouTube 配信  
 参加申込： オンライン参加者は下記のメール宛に申し込む。対面参加者は、メールまたは郵便で申し込む。

メールアドレス：mail.bsa@nssk.org

〒105-0011

東京都港区芝公園 3-6-18

日本聖公会東京教区会館内

BSA セミナー係

\*氏名・教会名・参加方法 (対面 / オンライン) を明記のこと

資料： オンライン参加者には後日メールで送ります。

参加費：無料

申込締切：5月10日(水)

オンライン参加方法：

日本聖公会東京教区 聖アンデレ教会  
 ホームページを開き、

「[礼拝ライブ配信](#)」にアクセスしてください。

**「日本聖公会緊急災害援助募金」の受入と送金先について（報告）**

期間：2022年1月1日～2023年3月10日

皆さまから管区へお献げいただいた災害被災者や難民救援のための募金は、緊急援助を必要とする地域への支援のためにお預かりしています。日本聖公会では「緊急災害援助資金」を設け、国内外からの救援要請に迅速に対応するための体制を整えています。今後ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

**◆管区事務所へお寄せいただいた援助募金（のべ56団体・6名）：**

ウクライナの人々のため（36件）	1,056,499円
トンガ津波被災者支援のため（1件）	100,000円
パキスタン洪水被害のため（4件）	103,391円
緊急災害援助のため（5件）	624,918円
トルコ・シリア地震被災者支援のため（16件）	1,771,000円

**◆管区からの各団体への送金：**

1月31日	トンガで発生した海底火山噴火と津波による被害のため	オーストラリア聖公会 ABM (Anglican Board Mission)	99,922円
3月30日	ウクライナの人々のため	WCRP（世界宗教者平和会議）日本委員会	300,000円
3月31日	台風22号（オデット/ライ）被災地支援のため	フィリピン聖公会	200,000円
3月31日	台風22号（オデット/ライ）被災地支援のため	フィリピン独立教会	100,000円
3月31日	トンガで発生した海底火山噴火と津波による被害のため	アロテアロア・ニュージーランド・ポリネシア聖公会、アングリカン・ミッシェン	218,975円
6月30日	ウクライナの人々のため	USPG（英国、United Society Partners in the Gospel）	463,218円
10月14日	パキスタン洪水支援のため	USPG（英国、United Society Partners in the Gospel）	300,000円
12月27日	ウクライナの人々のため	NCC 日本キリスト教協議会 (ACT ジャパンフォーラム)	200,000円
12月22日	ミャンマー聖公会への支援（国内難民や困窮者への食糧・医療支援）	ミャンマー聖公会トウンゲー教区 ※東京教区と連携して送金	500,000円
2月28日	トルコ・シリア地震被災者緊急支援	NCC 日本キリスト教協議会 (ACT ジャパンフォーラム)	500,000円
2月28日	トルコ・シリア地震被災者緊急支援	WCRP（世界宗教者平和会議）日本委員会	300,000円

※これからも随時送金を行なって参ります。

「私は世の光である。  
私に従う者は闇の中を歩まず、命の光を持つ。」  
ヨハネ 8:12

日本聖公会

# 神学校のために 祈る主日

2023.4.30  
(復活節第4主日)



聖公会神学院  
The Central  
Theological  
College  
1911年設立  
東京都世田谷区  
用賀1-12-31



ウィリアムス  
神学館  
The Bishop  
Williams'  
Theological  
Seminary  
1948年設立  
京都市上京区  
桜鶴円町380



『管区事務所だより』 2023年2月25日発行 第383号 訂正

\*5頁 東北 <信徒奉事者認可および分餐奉仕協力許可>

仙台基督教会：(正) グレース山崎梨可 (誤) グレース山崎梨可

\*8頁 神戸

教会名誤植：(正) 呉信愛教会 (誤) 呉神愛教会 (2か所)・呉聖愛教会 (1か所)

管区事務所

日本聖公会管区事務所ホームページ <http://www.nskk.org/province/>

☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメール、また郵便でお寄せください。

comm-sec.po@nsk.org 広報主事(鈴木 一)宛て